

日韓市民ネットワーク・なごや

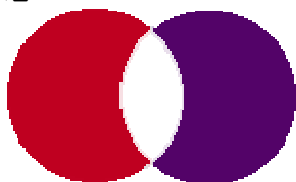
会報 No.45
2009-2-11

일한 시민 네트워크 · 나고야

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

朱色



紺青

目次

- | | |
|----------------|-----------|
| 1. 事務局通信 | 統括幹事：後藤和晃 |
| 2. 会の活動報告とお知らせ | 事務局 |
| 3. おしらせ | 事務局 |
| 4. 会員の広場 | 瀬尾文子 |
| 5. ソウル通信 | 坂野慎治 |

◇ 事務局通信

事務局 統括幹事：後藤和晃

◎(1) 駐日韓国大使から会員二人に感謝状！

この1月11日、名古屋キャッスルで開かれた愛知民団などの年賀交歓会の席上、権哲賢（クオン・チョルヒョン）駐日韓国大使からの感謝状が、日韓市民ネットワーク・なごやの会員2人に贈られました。

贈られた1人は、永年、韓国の伝統詩「時調」の研究・翻訳に取り組み、その成果を出版しつつある瀬尾文子さんです。瀬尾さんは、戦前、光州近郊の国民学校で教師をしていた人ですが、敗戦後帰国、昭和40年に名古屋韓国学校が創立された時

からハングルを学び、いらい息長く時調の研究、紹介に力を尽くしてこられました。

感謝状を受領したもう1人は、事務局を担当して来た私、後藤和晃でした。私が受賞した背景には、日韓市民ネットワーク・なごやの会員120人による11年間に上る日韓交流の努力がありました。ですから私への感謝状には、たまたま、会の代表者としての後藤の名が書いてあるものの、実際は会員120人を対象に贈られたものと理解しています。

いずれにしても今回、駐日大使から感謝状を受け取ったのは計3名でしたが、うち2人が日韓市民ネットワーク・なごやの会員であったことで、誇らしい気持ちになりました。

なお、今回も私たち2人が受賞した陰には、民団顧問でもある韓国学校の名誉理事長の鄭煥麒さんをはじめ、民団幹部の皆さん方から、強い推挙の声を戴いたと聞いております。紙上を借りて改めて、お礼を申し上げます。



◎(2) 記憶に刻まれた 08 年交流の夕べ

昨年 12 月 23 日に開いた交流の夕べには、予想をはるかに超えて 77 人の方が参加されました。この日の集いは、事務局にとって記憶に深く刻まれたものとなりました。以下に理由を 3 つ挙げますが、参加された皆さん方も共感をもって肯いていただけないでしょうか？

理由の一番目は、この日、東京からわざわざ駆けつけてくれた元韓国人留学生会長で、東大工学部の大学院生であるイ・スンフン君の感動的な挨拶でした。彼は「3 月には東大の大学院を卒業し、6 年ぶりに韓国に帰国します」と前置きして、こんな告白をしてくれたのです。



「実は、ボクは来日するまで日本は大嫌いな国でした。何しろ高校で習った社会科の教科書 2 冊のうち部厚い後編は、内容のほとんどが、大日本帝国が戦前の韓国で行った圧政の数々で埋められていたんです。日本人が嫌いになる教育以外の何者でもありませんでした。そんな僕でしたが、今は日本大好き人間になっています。それは 6 年前、名古屋に来て日韓市民ネットの皆さんと出会ったからなんです。皆さんと会い一緒にキャンプに行ったり、歌ったりする間に、こんなに心優しい日本人も数多くいるんだと知って、すっかり日本大好き人間になってしまったんですよ！！」…思わず目が潤んだことを思い出します。

スンフン君はこの夜「久しぶりですが…」といいつつ余興にショパンの幻想即興曲を弾きこなし、万雷の拍手を受けました。こんな美しい魂の留学生たちと出会えたのも、日韓交流に打ち込んできたおかげだと思ったものです。

理由の 2 つ目は、この夜、民団の副団長

として挨拶された、成功（ソン・ゴン）さんが、吉報を公表されたことです。吉報の内容は「このほど東京の韓国大使館からこの会の会員である瀬尾文子さんら 2 人に、駐日韓国大使から感謝状を贈ることになったとの連絡がありました！」というもので、会場は大いに盛り上がりました。



そして理由の 3 つ目は、この夜「4 月以降、会が中心となって日韓交流史の息の長い講座を韓国学校の教室を借りて発足させると表明できたことです。私たちは日本と韓半島は一衣帯水の地理関係の上に、過去 2000 年にわたって、多彩な交流の歴史を紡いできたと考えています。2 つの民族が互いに刺激を与え合いながら、それぞれに独自の素晴らしい文化を築いてきた歴史、そうした見方に立って、日韓両国の一流の歴史学者、考古学者の皆さんの協力を得ながら、2 年間を目途に、講座を展開する決意です。

その結果として、夫々の民族文化の特性や長所などを知ることになれば、相手の民族に対する理解も進み尊敬の気持ちも湧いてくるでしょう。

2008 年暮の交流の夕べは、以上に述べたいくつもの理由で、極めて印象に残るものとなりました。この夜、味わった、より高い交流への決意を、この一年も着実に行動に移していこうではありませんか！



◇ 会の活動報告とお知らせ

1.報告

1) 08年交流の夕べ 会計報告及び寄付者紹介

① 交流の夕べ 収支報告

収 入	会 費	205,000	支 出	料理・飲物・器類	135,959	差引残高
	当日参加者 77 名			会場装飾・雑費	6,888	
	会費徴収者 59 名					会費へ繰入
	寄付金 6 名	58,000		講師・お車代	20,000	
	(下記ご参照)			ピアノ奏者・謝礼	20,000	
	計	¥263,000		計	¥182,847	¥80,153

② 交流の夕べに関する寄贈品(敬称略)***心からお礼申し上げます。

<顧問・招待者>	
横内 恭 (¥ 30,000)	石原俊洋 (ワイン 2 本) 金 龍鐘 (¥ 10,000)
<会員・関係者>	
荒木巳威子 (ワイン・果物) 池田 進 (ウイスキー) 伊藤みつ子 (韓国焼酎)	
伊藤義郎 (チーズ・クラッカー) 大久保孝造 (ワイン 3 本) 金山栄子 (キムチ・惣菜)	
後藤和晃 (日本酒・おでん) 堺澤一生 (¥ 3,000) 佐藤昭子 (ワイン・竹炭豆)	
鈴木幸之助 (マッコリ 2 箱・ゴミ袋) 成 功 (¥ 10,000) 田口良浩 (日本酒)	
出口和代 (洋菓子・お子様用お土産) 長田竹子 (¥ 3,000) 水崎弘三 (¥ 2,000)	
宮本昌子 (果物) 山田雅樹 (キムチ)	

2.お知らせ

1) 第 12 回総会の開催

2009 年度の活動計画などを話し合う第 12 回総会を次の日程で開きます。

日時	3 月 22 日 (日) 15:00~
場所	名古屋韓国学校 2 階教室
	<地下鉄東山線亀島駅 2 番出口から 2 分>
内容	2008 年度実施行事の報告
	2009 年度行事計画の提案及び事務局態勢など



発足以来 12 年目を迎える日韓市民ネットワーク・なごやは、今年新しい試みにチャレンジする計画を固めています。それは事務局通信でも触れた通り、“日韓交流史のロマン”を学ぶ歴史講座の開設で、この問題を中心に討議する総会となるでしょう。

総会終了後には韓国学校の近くのお店で、懇親会を開きます。参加費は 3000～3500 円程度の予定です。こちらは第一義的には会員の皆さんが互いの親交を深める場ですが、今回は以下に述べる 3 つの要素を加味したいと思います。

総会終了後に懇親会を行います

- ① 4 月開講の“日韓交流史講座”の前祝い
- ② 1 月に駐日韓国大使から感謝状を受けた会員の瀬尾文子さんらの内祝い
- ③ 冒頭、事務局通信で紹介した元韓国人留学生会長イ・スンフン君の東大大学院卒業と帰国に伴う激励会

上記の意味あいも込めて気軽に楽しい懇親の場を持ちたいと思います。振るってご参加下さい。



※ 総会及び懇親会への参加の出欠を、同封の葉書で 3 月 15 日までにお知らせ下さい。

(2) 2009 年度の会費納入について

2009 年度の会費の納入は下記により、よろしくお願ひします。

- ① 年会費 これまで通り 4,000 円
- ② 支払い方法 例年通り、同封の振込用紙を使って郵便局から振り込んでください。

会費の納入は 3 月 20 日までにお願ひします

※ 万一、振込用紙を無くした方は

口座名 日韓市民ネットワーク・なごや

口座番号 00830-4-36485

郵便局備え付けの振込用紙に、上記を記載の上、振り込んで下さい。



3.お知らせ 日韓交流史講座 開講案内

講座の狙いは次の通りです

日韓交流史

2000年のロマンを歩く

主任講師 武井 一

主催 日韓交流史研究会

いま、日本では古代史が静かなブームを迎えています。考古学、歴史学の進展が背景にあります。そんな中、歴史ファンの視線は、韓半島と日本との交流史の解明に集中しはじめています。

一衣帯水の関係にある日本と半島の交流は、すでに縄文時代にその萌芽がきざし、弥生から古墳時代にかけては、半島から人や文化の渡来の波が、日本に向け幾度となく押し寄せたと見られるようになっていきます。



日本文化はアジアの東の果てに、孤高の文化を開花させてきたとされていますが、その創世期の文化には、渡来文化の巨大な影響があったことは否定できなくなっているのです。

相互のDNAや言語、宗教、神話、古墳等々、探れば探るほど半島の影響の大きさが理解出来てきます。こうした理解をバネに、歴史ファンの多くが、日韓交流史の原点を両国各地に訪ね、日本人の血や日本文化に秘められている半島の影響を確認したいという強い願望を持っています。

この講座は、2000年に及ぶ日韓交流史上の様々なポイントを取り上げ、座講と現地への踏査旅行で、歴史の真実を大胆に読み解いて行きます。例えば日本史にいう任那(みまな)の実体は？対馬、壱岐に渡来の痕跡は残っているか？日本独自の古墳という前方後円墳が韓国に一時期出現する理由は、などなど

また、知られざる人間交流のロマンをも掘り起こし、韓国理解の一助にもしていきます。なお、現地踏破ではできるだけ日韓の著名な考古学者や歴史学者の講義や解説も考慮します。

講師の武井氏は、日比谷高校の教諭で韓国に関する著書多数。

過去10年にわたり、韓国の国営放送局KBSの日本向けラジオ放送で日韓交流史など解説、文科省の依頼を受け、日本の高校生集団を韓国に引率したり、日韓交流団体の韓国史紀行の案内役も多数経験。韓国語自由自在。

なお、日韓交流史研究グループとは名古屋を中心に関東、関西の歴史ファンも参画した団体。日韓両国の歴史学者、考古学者の支援をうけながら、日韓交流史を追及している。韓国では、韓国を代表する著名な古代史家、高麗大学の金鉉球教授をはじめ韓国各地の名門大学の考古学教授たちの指導、協力を受けている。



“日韓交流史”講座の内容

(1) 講座の日程

09年4月開講 月1回・第3日曜日(10時30分から)

※4月は学校の都合で第4日曜

(時間は13時30分から)

(2) 会場

・名古屋韓国学校2階教室

※地下鉄東山線亀島駅2番出口から2分

(3) 講座の第1シリーズ

「謎の国・伽耶とは？」

- ① 4/26 「伽耶の古墳の特徴と日本への影響」
講師 南山大学名誉教授 伊藤秋男氏
- ② 5/17 「日韓交流史の原点 勒島(ヌクト)とは？」
講師 名古屋大学名誉教授 渡辺 誠氏
- ③ 6/21
「最も関係の深い・金官伽耶と古代日本」
講師 武井 一氏
- ④ 7/19 「安羅伽耶と大伽耶、伽耶の終焉」
講師 武井 一氏
- ⑤ 8月中「謎の伽耶”探訪紀行」
※現地へ3泊4日の旅行
講師 慶北大学教授 朴天秀氏
ヒット本『伽耶と倭』の著者
同行 武井 一氏
- ⑥(9/未定) 「伽耶の実体と古代日本との関係」
講師 武井 一氏



(4) 主催団体 日韓交流史研究会

顧問 日本

南山大学名誉教授 伊藤秋男氏

京都橘大学教授 猪熊兼勝氏

韓国

高麗大学教授 金鉉球氏

(日韓歴史共同研究韓国代表〔古代史〕)

伽耶に続いて百濟・新羅・壹岐・対馬
高句麗などのシリーズを組んでいます。
ご期待してください!



회원 마당 会員の広場

◎ 駐日大韓民国大使、権哲賢氏の 感謝の表彰状を頂いて

会員：瀬尾文子

短歌の道 10 年の私が、ハングルを学びに、愛知韓国学園名古屋韓国学校に入学したのは 45 歳だった。

入学して一ヶ月目、短歌の私は韓国固有の定型詩「時調」に深く興味をもった。時調は一首が初章・中章・終章から成る 3 章詩形で、総字数は 45 文字内外である。

時調を解説するうちに、3 章の文字列がそれぞれ響きあい、ダイヤモンドの粒々となって、眼の前にキラキラと輝くようになった。時調の輝きに私は魂を奪われた。このキラキラ状態が三ヶ月間続き、洋画家の夫に「お前は時調に恋をしている。

お前は芸術家だ」と言われた。とはいえ時調の、最大の理解・協力者は夫だった。私は日本中に時調を広めねばならぬと思った。

卒業後、韓国学校の理事の紹介で、古時調の権威、大韓民国芸術院賞著作賞の、沈戴完博士に直接師事できたのは、時調研究上甚だ幸運だった。現在三冊目を執筆中である。

今の私は 81 歳。時調発表の場を与えて下さった多くの方々が故人である。時調研究を続けることが、御恩に報いる道であろう。

献歌

韓国の 喜びもまた 悲しみも
海を隔てて わがことときつ

短歌詩「水甕 名古屋通信」から

愛の現代韓国時調

瀬尾文子・翻訳と解説

夢魂 一 朴炳淳 (パク・ビョンスン)

四年前に身罷った (みまかった) 妻が
虚脱の状態の僕を

撫でたり抱いたり
慰めたり身体を揉んだり

洗面器に湯を入れてきて
顔を洗ってくれた夢だった



亡き妻が夢に出て、虚脱の夫の世話を、細やかにする描写が良い。僕を撫でたり抱いたり、慰めたり、身体を揉んだり、洗面器に湯を入れてきて、顔を洗ってくれた夢だったと、心地よい夢だっただろう。筆者は、亡き夫の肌の感触を、反歌。

夢さめて汗ばむ指の感触に
亡夫の肩の滑らかな肌

夢魂 二

妻は脚の完全な
健康な身体で来て

僕を隅々まで洗い
拭いて世話をして

飯を炊き 朝の膳を整え
何処ともなく消えた



서울 통신

韓国ソウル市在住 坂野慎治さんのソウル便りです。
韓国 在住生活を基盤として幅広くご活躍されておられる
レポートです。
今後とも期待しております。

○韓国の自動車産業にも不況の波 —— 韓国ソウル市在住 会員 坂野慎治
(梨花女子大学・通訳翻訳大学院講師)

世界中の自動車メーカーが厳しい状況に追い込まれている中、韓国の自動車メーカーも例外ではありません。韓国の自動車メーカー5社（現代、起亜、ルノー三星、GM大宇、双竜）の韓国内での販売台数は、2008年11月に7万4217台と前年同月比で27.3%減少しました。

そうした不況の中、健闘したのが、起亜の軽自動車「モーニング（排気量1000cc）」で、初めて月間販売台数1位となりました。軽自動車（韓国では1000cc以下）が1位になったのは1999年1月以来のことで、起亜の自動車は1位になったのも2001年12月以来のことです。



写真：起亜の軽自動車「モーニング」

モーニングの11月の販売台数は7596台（前年同期比149%）で、2位の現代・アバンテ（1600cc～）の5704台（-28%）、3位の現代・ソナタ（2000cc～）の4975台（-54%）など、ベストセラー車を大きく引き離して、新車市場の1割を占めるほどの売れ行きを見せました。そのため、モーニングは生産が追いつかず、納車まで3ヵ月あまり待たなくてはならないほどです。大きな車が好まれる韓国で軽自動車がここまで売れるとは、景気の厳しさを実感させられる出来事です。

モーニングの人気について、専門家は「いくら景気が悪くても良い車は売れる」

と話しています。つまり、消費者は小さくて丈夫な車を欲しがっているのに、メーカーが中・大型車ばかり生産しているため、当然の結果だというわけです。モーニングの人気は、デザインや性能が飛び抜けて優れているというより、税制上の優遇措置を受けられ、燃費もいい軽自動車の選択肢がほとんどないからなのです。現在、韓国で販売されている軽自動車は、モーニングとGM大宇のマティズ（800cc）しかありません。最大手の現代は、2002年にアトスの生産を打ち切った後、軽自動車の販売計画がありません。

このように韓国の自動車メーカーが軽自動車を生産したらない理由は、利益を出しづらいからです。特に韓国内の工場ではコストがかかりすぎて、赤字になる恐れもあります。モーニングを例にとつ



ても、納車が遅れているのは工場の柔軟な対応ができていないため、つまり強硬な労組が賛成しなければ、工場の生産車種を変更することもできないためであり、大きな機会損失を起こしていることとなります。

こうした点は、アメリカのビッグスリーに似ているという指摘もあります。小型車に力を入れてこなかったビッグスリーが今、経営難に陥っているのは、他人事ではないということでしょう。

しかし、今こそチャンスだという意見もあります。これを機に労組が会社側と協力すれば、不況に円高まで重なった日本の自動車メーカーにも対抗できるというわけです。韓国の自動車メーカーにとって、この不況が危機となるか機会となるか、重要な岐路に立っています。

編集後記(2009/2/11)

「あけましておめでとうございます」を韓国語で言いますと**새해 복 많이 받으세요**。セヘ ボク マニ パドゥセヨ になります。今年1月26日が旧暦のお正月でした。さて昨年からのサブプライムローンの金融不況で全国で一番元気のよかった愛知県が一番の不況の嵐にあったようです。このような状況下であっても元々お金に縁のない日韓市民ネットワークなごやは元気そのものです。今年も会員一同、不況に負けず着実に歩んでゆきましょう。

編集長 中川修介 Mail:nakagawa@amenity-owari.jp